

あすなろ

発行 沖電気の職場を明るくする会(OAK) TEL 03-3455-6006
 東京都港区三田3-2-20 FAX 03-3451-3595
 メール: oak@fine.memail.jp



沖電気の職場を明るくする会
 のホームページです
 電機連合は生活破壊の3年連続のベースアップなしの春闘をするな

<http://oak47.hp.infoseek.co.jp/>

計画概要

建築物の名称	(仮称)「TTPプロジェクト」
所在地	港区芝浦4丁目1番69
用途地域	準工業地域・建ぺい率60%
用途	共同住宅約910戸、駐車台数約442台
構造・規模	鉄筋コンクリート、地上47階、地下1階
最高高さ	167.30m
敷地面積	11,276.21㎡
建築面積	4,300.00㎡
工期	平成16年9月～平成19年12月下旬

図は省略しています。新聞のほうを参照願います

売却した沖電気の跡地部分

売却された沖電気の東京地区は、蕨への引越しも終了し、立ち入り禁止となって建物の解体作業が進んでいます。夏は、いよいよ安全管理はどうなっているか、

変貌する沖電気の跡地

図は省略しています。新聞のほうを参照願います

真ん中が吹抜けになる建設計画

いたか気になる場所です。解体され更地になった跡地には、地上四七階、地下一階、高さ一七〇mの超高層マンションが建設されます。マンションは三角形の真ん中が吹抜けになる予定で九一〇戸の住宅すべてが外側を向いており、すばらしい展望が望めそうです。

しかし、今年の異常気象のなかで、東京湾の海風を沿岸の高層ビルがさえぎり、熱帯夜の原因になったとも言われており環境にやさしい開発が問われています。

沖エアフォルクでサービス残業是正

本紙(あすなろ)7月号号スポットに、沖エアフォルクでのサービス残業についての記事が掲載されました。発行の前日から、沖エアフォルクの管理部長が、各職場の人達に実態調査のヒアリングを行っているとの話があり、その結果でしようか、二交替の職場で、早番(朝6時～午後3時30分)と遅番(午後5時30分～翌朝2時30分)の間の2時間を早番の人達が残業でつなぐのを、サービス残業させていたことが判明し、こ

これらの職場の人達に時間外手当が清算されました。ある労働者は、「二回目のボーナスが支給されたような気分だ」と喜びを語っていました。

昨年十月に、労基署が3回目の立ち入りを行った結果、会社自らが「膿を出した」という感じでした。これが、働きやすい、働き甲斐のある職場への第一歩になればいいと思います。最近になり、労働者の家族から労基署に訴えがあったという話も聞きますが、あすなろ7月号発行時期との絶妙なタイミング。あすなろのおかげかも知れません。



「働き方を考える」多くの感動を与えてくれ閉幕したアテネのオリンピックでしたが、開幕前は工事遅れが報道され、水泳施設など、一部分が完成しないまま開幕を迎えたそうです。このことがギリシャ国内で問題になっていると言う話は聞かれませんでした。工事遅れを肯定するわけではありませんが、なにか国民性というか、働くことの意味が日本とは違うのではないかと感じました。例えば「過労死」「単身赴任」「サービス残業」などは日本でも通用しない言葉であり、働かせ方です。イギリスの全国組織である労働組合会議(TUC)の定期大会は米国型社会を「利潤第一、最低限の社会福祉、長時間労働」と批判しTUCは「確固とした社会福祉、市民、労働者としての権利の強固な枠組み」を指すとしています。「米国のほうが効率のいい経済だが欧州はより平等だと言える」とロンドンの経済政策研究センター理事長は評価しています。日本では「利益のためにある程度のサービス残業やリストラは仕方ない。他の企業がやっているのにならうがやらなければ負けてしまう」などの意識が組合・労働者のなかに浸透しているようです。利益第一より市民・労働者の生活、社会福祉を優先している欧州。今、「働き方」について考える時ではないでしょうか。(加)

ふたり「ひとり」が 異常あり ——企業の健康診断——

厚生労働省のまとめでは、企業に義務付けられている定期健康診断で、血中脂質や肝機能などの数値が「正常値に入っていない（異常あり）」とされたサラリーマンの割合（有病率）が昨年（〇三年度）47.3%で過去最高だったことが分かりました。有病率は毎年上がり続け一九九三年に比べ十年間で13.7%も上がっています。特に血圧や血中脂質など生活習慣病のパロメーターとなる数値が悪くなっており、デスクワークが多く運動不足、お酒を飲む機会も多い「サラリーマン」が増えています。有病率が増がらない原因は企業の長時間労働や、能力主義主義やリストラによるストレスなどが

考えられます。

このように、定期健康診断の役割が重視されるなか、沖電気では健康診断の項目が年々減らされています。眼底出血、胃のレントゲン、一時は握力や反復横とびなどの運動機能も項目に入っていました。労働組合は、定期健康診断を充実させるより、健保の補助で受けられる、人間ドックを公休で受けるように

指導していますが、高い自己負担を考えれば従業員全員が人間ドックを受けることはありえません。沖電気の深野委員長は中央労使協議会で「傷害手当金の64%が精神障害が占め2000年度比で二倍以上の件数になっている。社員数の減少を考えると課題としてあげざるを得ない」と発言しています。毎年の定期健康診断項目を増やし充実させることと、ストレ

労働安全衛生規則第44条最低検査項目	
1、既往歴及び業務歴の調査	
2、自覚症状及び他覚症状の有無の検査	
3、身長、体重、視力及び聴力の検査	
4、胸部X線検査及び喀痰検査	
5、血圧の測定	
6、貧血検査、（赤血球数、血色素量）	
7、肝機能検査（GOT、GPT、-GTP）	
8、血中脂質検査（総コレステロール他2件）	
9、血糖	
10、心電図検査（安静時心電図検査）	
11、尿検査（尿中の糖及び蛋白の有無の検査）	

ある原因で、ストレ、トラ対策も必要ではないか。

徳富蘆花で 明治を想う

群馬県・伊香保温泉の石段通り、その下方に徳富蘆花（本名健次郎）の記念文学館がある。亡くなるまで過ごした部屋もそのまま残されており、展示館には作品やその生涯を紹介するビデオや資料があり、蘆花を知らない人でも楽しむことができる。

代表作は演劇や映画にもなった「不如帰」——家制度のしがらみと結核にさいなまれる主人公、浪子の悲しくて切ない思いに引き込まれて涙してしまふ。

東京・世田谷、京王線の芦花公園駅を下車して徒歩二〇分のところには記念公園。

（明治四〇年）憧れていたトルストイの影響を受け北多摩郡千歳村粕谷に移り住んだ蘆花はそこを恒春園と名づけ「美的百姓」と称して田畑を耕した。保存されている母屋のならばには、一九一〇年（明治四三年）におきた大逆事件で処刑された幸徳秋水の名を取って付けられた「秋水書院」がある。

明治天皇の暗殺を計画したと容疑をかけられ十二名が処刑されたこの事件で、蘆花は第一高等学校（現東大）で

「謀反論」と題して度量の狭い政府に対する怒りの演説を行っていた。広く深く歴史を見る目の大切さ、そして新たな歴史を創っていく学生たちに「諸君、我々は人格を磨くことを怠ってはならない」と語っている。

いま、この地は四季の花が咲き乱れ、雑木林や竹林など武蔵野の面影を残す貴重な場所になっている。「人は労働だけでも書物のみでもいけない。どちらも必要だ」と言った明治の文豪はクヌギ林の一角に眠る。（享年五十八歳・一八六八—一九二七）（ふ）

エッつもらえないの

本庄

「一人五万円、夫婦で十万円だよ。祝い金までリストラされるのは思わなかったよ」今年九月、結婚二五年を迎える職場の仲間がくやしそうに語ります。

二〇〇四年一月末、沖電気の共済会は災害見舞金だけを残して廃止されました。結婚、出産など人生の節目に支給されてきた祝い金。夫婦共働きの多い本庄工場では支給額も倍になり、お祝い事に花を添えてきました。「減額されても制度として残して欲しかった」のさやかな楽しみも奪ってしまふ会社のやり方に不満の声も多く聞かれます。

労金のATMはどこへ？

東京

芝浦から蕨への移転も一段落したようですが、不便に感じていることのひとつが労金のATM撤去でした。

以前から社内での利用者が多くて、給料日などは組合事務所の中に何人かの列ができるほどでした。今回の異動で利用客の見込みが減少したせいなのでしょう。

やむを得ず三田側の専売ピルの労金まで行っているという話も聞きましたのでちょっとした役立ち情報です。

いつも通勤で通っている田町駅東口交差点を田町駅から来て左に曲がると、芝浦小学校の校庭の道路をはさんだ向かい側にある、田町交通ビル（道灌かかりのあるビル）の

1階に労金のATMがあります。活用しましょう。

プロ野球選手会に

学ぶもの

八王子

一見、「労働組合」とは縁がないと思われがちだった「プロ野球選手会」は近鉄とオリックス球団の合併に反対して「プロ野球機構／経営者」にたいしてストライキを決定して粘り強く闘っています。ファン（国民）からも八割以上の支持を得ていると報道されています。



長が「解任」され、部長2人が「減給」という内容のようです。部長2名中1名は「解任」された2人の係長の上司。係長が「サービス残業をやらせていた罪」に問われた形ですが、「係長独自の判断で出ることではない。この部長の指示がなければ出来ない」。この部長は、前社長の時代から尻馬に乗ってサービス残業を推進してきた人」というのが、ほとんどの人の一致した見方。これでは「トカゲの尻尾切り」では？

災害対策の見直しを

群馬

9月1日「防災の日」の夜、浅間山が突然噴火、21年ぶりです。噴火当時、高崎や富岡工場で残業していた人は、「ドンと振動を感じて何かなと思った」と言い、自宅にいた人も「外で何かが落ちたのかと思つて見に行つた」「ガラスがビリビリと振動した」と状況を語っていました。

豪雨や台風による様々な被害が連日のように報道された時期で、「群馬は自然災害がない県で良かった」「こんな

とんだなかつたもの」と、職場で話していた矢先のことでした。2度目の噴火の時には、一部の地域で火山灰が降り、「花粉症」が発症した人も。大自然の災害を防ぐことは

できません。突然の災害対策を考える機会にしたいものです。